

令和6年度 丹波県民局アクション・プラン

兵庫県丹波県民局

背景・目指す姿

丹波地域では、「丹波の森宣言」以降、30年以上にわたって、住民、事業者、行政が一体となって、「丹波の森づくり」と呼ばれる自然と人と文化の調和した地域づくりを進めてきた。地域の持続可能性を追求する森づくりの理念は、今日のSDGsの考え方と軌を一にするものである。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により、地方回帰の傾向が顕著になり、テレワーク、二地域居住など人々の働き方、暮らし方にも大きな変化が生じている。それに伴い、丹波地域への移住者数※は増加し、人口減少・高齢化が進む地域社会も変わりつつある。

2025（令和7）年に開催される大阪・関西万博を見据え、ポストコロナ社会のショーケースとして丹波地域を発信できるよう、SDGsの達成や超スマート社会への対応、地域発イノベーションの創出などに取り組み、持続可能な地域を目指す。

※移住者数：「丹波篠山暮らし案内所」、「丹波市移住相談窓口」を通じて移住した人数

● 目標

No	項目	起点	目標値 (2024 (R6) 年度末)
1	滞在人口 (15歳以上～80歳未満)	2,960万人(2021(R3))	3,026万人
2	Co2排出量	1,374千トン(2019(R1))	1,267千トン
3	観光入込数	407万人(2021(R3))	517万人
4	移住者数	369人(2021(R3))	445人
5	事業所(者)数	4,950事業所(2021(R3))	5,000事業所
6	農林水産業産出額	16,792百万円(2020(R2))	17,000百万円
7	これからも住み続けたいと思う人の割合	74.2%(R4)	過去5年間の最高値(R3:76.5%)以上
8	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	64.1%(R4)	過去5年間の最高値(R1:69.2%)以上
9	ICT(情報通信技術)などにより、どこにいても便利に暮らせる社会になってきていると思う人の割合	39.4%(R4)	過去5年間の最高値(R2:43.0%)以上

取組の方向性

「丹波2050地域ビジョン」の基本理念を踏まえつつ、空間像、社会経済像、人間像の観点から目指すべき将来像の実現に向けて取り組む。

1 空間像－生活空間の再編・創造－

- 1－1 森の保全と活用－守り・活かす－
- 1－2 集落、まちの創生－居心地のよい「場」の創出－

2 社会経済像－新しい経済・雇用のしくみ創出－

- 2－1 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり
- 2－2 柔軟な働き方が可能な社会の実現

3 人間像－新たな人材、つながり、コミュニティの出現－

- 3－1 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上
- 3－2 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現

令和6年度丹波県民局主要施策

- ◆ 「森」の保全と活用－守り、活かす－（4,035千円）
- 丹波の里山づくり促進事業（アクティブ・フォレスト・プロジェクト）

里山づくりを持続的に行うため、里山づくり活動団体の支援や情報発信に加え、里山資源、森林空間を活用した体験プログラムなど里山の利活用と収益性確保に向けた仕組づくりを推進する。

- ・ 森を未来につなぐフォーラム（R7年度）の開催準備
- ・ 里山活動団体へのアドバイザー派遣
- ・ 里山ワンストップ窓口としてのWEBサイト「森機応変」の運営
- ・ 「木の駅プロジェクト活動」への参加促進
- ・ 里山資源を活用した里山活用企画の実践実証
→ 万博を見据えた体験プログラムの検討 等



WEBサイト「森機応変」



令和元年度 丹波の森を未来につなぐフォーラムの様様

● 丹波の環境パートナーシップづくり〔拡充〕

平成25年に県、市、住民団体等が連携して環境保全・創造を推進するために「丹波地域環境パートナーシップ会議」を設置し、貴重な動植物の保全に務め、情報誌発行や環境学習を通じて、SDGsに幅広く取り組んでいる。

- ・丹波地域の自然（里山、河川、生物等）を活かした環境学習プログラムの提供
- ・地球温暖化の影響、里山の保全や木材の活用について学び、カーボンニュートラルを実現するためのセミナーを実施



環境学習の様子

● 桜づつみ回廊の美観保全

桜づつみ回廊の保全事業を行う住民団体への補助を行い、長寿命化を図る。



篠山川沿いの桜づつみ



桜づつみ回廊位置図

◆ 集落、まちの創生－居心地の良い「場」の創出－（15,223千円）

● 活力ある農村集落づくりの推進

（地域農業の担い手の育成・農地のフル活用、地域でため池を守るプロジェクト）



ため池看板の設置（丹波市 千代田池）

- ・ 農地のレベルアップ整備に必要となる計画策定支援
- ・ 獣害防止、雑草抑制を目的とした新技術の実施・検証
- ・ ため池の魅力発信



電気柵設置場所への鉄鋼スラグ材敷設例



JR柏原駅南の県有地

● まちの拠点創造プロジェクト

- ・ JR柏原駅南の県有地における施設整備の推進
 - J R 柏原駅南用地の民間事業者による展開を目指し、サウンディング調査や現地見学会を実施
- ・ まちの居場所づくり～放課後みちくさプロジェクト～
 - 柏原高校の生徒などに、放課後等の空き時間に過ごせる居場所として、柏原スタジオを開放
 - 中・高校生と地域や大学生等との交流・体験の場として活用



柏原高校生による演奏会【柏原スタジオ】

● JR加古川線維持・利用促進事業〔新規〕

JR加古川線の維持・利用促進に向けた取組、環境整備

- ・ 谷川駅、久下村駅でのJR加古川線リレーマルシェ（夜市）開催
- ・ 久下村駅周辺環境整備検討会議の実施



谷川夜市で賑わう駅前広場

● 学生等による地域貢献活動の推進

丹波地域において、大学生等の団体が自治会などの地域団体と連携し、地域の課題解決や活性化に資する活動を支援

これらの活動により、学生等の知恵や活力、経験等を活かした地域活性化の取組を推進



竹林整備の竹材を活用したフラワーポットの作成
（関西大学：福住地区）

◆ 新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり (52,287千円)

● 先端技術等を活用したスマート農業の推進

- ・ 農業用ドローン利用の拡大に向けた支援
- ・ 衛星画像等のデータを用いたスマート施肥システムの技術実証
- ・ 果樹におけるスマート農業技術の実証



ドローンによる栗園での農薬散布

● 兵庫丹波ブランド農産物の魅力発信

黒大豆・小豆・栗・山の芋に代表される兵庫丹波地域の農産物のブランド力をより強固なものとし、四季を通じた丹波地域の賑わいを創出するための取組を支援する。

- ・ 各種ブランド農産物フェアの開催
- ・ フードビジネスへの新たな取組に対する支援
 - 兵庫丹波ブランド農産物を活用した新商品開発にかかる試作や販売促進に要する経費を支援



衛星画像による地力解析技術を利用した田植え同時可変施肥の実演



開発された新商品 (もなか)

● 丹波の地酒魅力向上事業〔拡充〕

管内酒造と連携し、地場産業である清酒業の振興を図る。

- ・ 丹波三宝ダム貯蔵酒事業
- ・ 管内酒造との新たな連携事業の検討



丹波三宝ダム貯蔵酒

● 食文化ツーリズム・プロジェクト

丹波の食、食文化や食を育む風土などを体感できる食文化ツーリズムを推進する。

- ・「食文化ツーリズムプロジェクトチーム」の運営
- ・WEBサイト「ぶらり丹波路」、SNS等での魅力発信



地元食材を使った農家民宿の料理

● 四季の丹波「コト体験」の充実

丹波特有の地域資源を活かしたユニークなコト体験プログラムの開発・充実を支援し、マイクロツーリズムを推進する。



陶芸体験

● 誘客促進に向けた二次交通の整備〔新規〕

万博を見据え、観光資源、FP認定プログラム体験等を巡る周遊観光バス事業や、イベント時の移動手段としてグリーンスローモビリティを運行するなど、誘客促進に向けた二次交通の整備を試験的に実施する。

- ・周遊観光バス「ぶらり丹波路号（仮称）」
- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム「たんば恐竜号（仮称）」



グリーンスローモビリティ

● 恐竜化石フィールドミュージアムの推進〔拡充〕

- ・ 恐竜サポーターの拡大（R6単年度目標：400人）
- ・ 出前発掘体験（アウトリーチ事業）、モバイルスタンプラリーの実施
- ・ 「たんば恐竜号（仮称）」試験運行事業〔新規〕（再掲）
→2025年大阪・関西万博を見据え、電車で丹波地域へ来訪する方が、フィールドミュージアムのスポットを訪問する際の二次交通となる乗り物を試験運行する。
- ・ ホームページの充実及び活用
→見どころスポットなどの解説提供や外国語に対応したページなど、丹波地域恐竜化石のポータルサイトとしての機能充実を図るとともに、現地にQRコードを設置し、スマートフォンからホームページを閲覧できるよう整備することで、学習効果及び観光の利便性向上を図る。



丹波竜の里公園・元気村かみくげ

● 人材確保・産業立地推進事業〔拡充〕

- 若者の地域定着やUJIターンの促進等により人材の確保を図る。
- ・ 若者と地元企業とのマッチング応援事業
 - ・ 管内企業の魅力情報や地元就職者のインタビュー等を情報発信 等



企業と大学等との情報交換会

● “シリ丹バレー”構想の推進〔拡充〕

内外の産学官民のネットワーク形成を進め、地域発イノベーションの創出・創発を促進するエコシステムの構築を図る。

- ・セミナーの開催、ウェブサイトによる情報発信
- ・コワーキング・スペースのハブ機能の促進
→ 地域内外のコワーキングスペースのネットワーク化により、地域事業創造の拠点としての機能を強化(地域資源、食等を活かした小規模定例セミナー等)
- ・ウッドバレー・プロジェクトの推進
→ 木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業の裾野拡大を目的に木材関連産業創造ネットワークの形成を図るとともに、新規事業創出を目指す。
- ・たんばL P S (Local Problem Solution) コンテストの開催〔新規〕
→ 起業プランや地域課題解決に資するアイデアを募集し、コンテスト形式で地域内外に発信することで、地域住民や企業の起業・地域づくりに関する意識醸成・理解促進、内外の支援者・協力者の獲得、異業種・異世代の交流促進とネットワーク構築、ビジネス展開・起業家等の育成、シリ丹バレー推進協議会参加者の拡大を図る。
 - － ビジネスプラン等の募集
 - ①ソーシャルビジネス部門…丹波地域が抱える課題を解決できるビジネスプラン・アイデア
 - ②ローカルビジネス部門……丹波地域が有する資源を活かした収益性のある見込めるビジネスプランやアイデア
 - － ブラッシュアップセミナーによる磨き上げ
 - － 審査・プレゼン
 - － ビジネスマッチング



ウッドバレー研究会の様子

◆ 柔軟な働き方が可能な社会の形成（0千円(再掲)）

● “シリ丹バレー”構想の推進〔拡充〕（再掲）

- ・ 民間副業人材の活用
→ 丹波管内企業が求める人材（IT技術者等）の確保を目指す。
- ・ ユース起業アカデミーの開催〔拡充〕
→ 若者をメインターゲットに令和5年度に実施したプログラムを「ビギナーコース」とし、起業についてより深く、レベルアップした内容を学ぶ「アドバンスコース」を開設し、丹波地域でイノベーションを起こす人材の発掘・育成を支援する。



R5 ユース起業アカデミーの様子

◆ 創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上（9,187千円）

● グローカル丹波2025推進事業〔拡充〕

2025年の万博に向け、関係者間の連携を深め、機運の醸成を図るとともに、万博開催後も資源を活かした取組を持続的なものにしていく。

- ・ モニターツアー（現地研修）の実施
- ・ 教育旅行コンテンツ造成の推進
- ・ たんばフィールドパビリオンプレ体験会の実施〔新規〕



● “もりびと”育成事業

丹波地域の児童・生徒がその発達段階に応じて、ふるさとの自然環境や歴史、文化、特産物等について学習・研究活動を行い、その成果を発信することで、丹波地域が持つ魅力の新たな発信、ふるさと意識の醸成を図る。

→ まちの自慢発信事業、丹波の森若者塾開催事業

● たんばユース躍動プロジェクトの推進

兵庫県立丹波の森公苑をフィールドとして、森の再生を図るために必要な「動物」と「植物」の実態について学ぶとともに、同公苑における縄文里山林のあり方を考える。さらに、「食べる」という観点から循環的な森の再生の必要性についても考える。



植生について学ぶ受講生

● シューベルティアーデたんばの支援〔拡充〕

- ・ シューベルティアーデたんば開催30周年を記念するコンサートの開催
→ 著名なオーケストラを招いた記念コンサートの開催
- ・ ふるさと音楽ひろばへの支援



1st(1995年) たんば田園交響ホールにて
(25周年記念誌より)

◆ 人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティの出現（5,871千円）

● 丹波2050地域ビジョン推進事業

地域ビジョンに掲げる将来像の実現に向け、シンボルプロジェクトごとに設置されたプロジェクトチームが主体的に事業の推進を図るとともに、丹波地域の次代を担う若者等からなる「第2期たんばユースチーム」を結成し、意見を取り入れながら取組を推進していく。

地域ビジョンの推進組織である「プラットフォームTAMBA」では、全体のフォローアップのほか、プロジェクト間の連携やたんばユースチームの提案をプロジェクトへ反映することなどに取り組む。

● “シリ丹バレー”構想の推進〔拡充〕（再掲）

・スマート・コミュニティ・プロジェクト

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向けたデジタル技術導入のあり方を研究する。

→ 地域集落が抱える様々な課題解決に向け、必要となる新たなデジタル技術の活用を研究

→ 地域集落へのデジタル技術導入に向けた、機運醸成を図る

・丹波型事業共創コミュニティ形成事業の実施

地域主導で主体的に事業を発意して新しいビジネスを興し、地域内外の力を結集し事業を展開するためのコミュニティ形成をめざす。

→ 地域への愛着を抱く地元の企業家・事業者（事業共創パートナー）が中心となり、コーディネート機能を担うことでコミュニティを機能させる。また次世代を担う人材を発掘し、持続可能な地域づくりに取り組む。



徳島県上勝町視察の様子



関西経済連合会との意見交換の様子



兵庫県